





【プログラムの進め方】 ①「ごみにけーしょん」

	学習内容・活動	写真
導入	<p>始めにタイトルの由来からスタートし、ゴミとは何かについて問いかける。ゴミとは、人の価値観によって変わるものであることなどを引き出す。次に、最近買った商品とそれを買って帰る時に何に入れて持ち帰ったのか、そして、どう使い、捨てたものはあるかなど包装も含めて制限時間内に書き出すように促す。</p>	
展開	<p>発表させて、黒板に3つ程度掲示する。これらの商品はどこでつくられるのかを問う。工場で作られて、パッケージに入れられて、梱包されて、近くのスーパーなどに運ばれる。この過程で、大変なエネルギーを消費し、CO2を排出する。これが温暖化の一因。私たちが生活をするとならかのゴミが出る。大量生産、大量消費、大量廃棄。一方で資源は減り続ける。天然資源は有限であることを知る。ゴミのゆくえ。ゴミは移動しているだけということを知る。埋立処分場や不法投棄、豊島のゴミ問題にもふれながら、私たちの出すゴミの総量について学ぶ。日本、香川県、高松市など。一方通行型社会から循環型社会への転換が必要であること、そのためには2R、3Rという考え方が重要であることなど、地球にやさしい暮らし方をするために自分たちができることを学ぶ。グリーンコンシューマーや10R。ゴミとは何か、土に還らないもの。分別すれば資源であることなどを学ぶストーリー。</p>	
まとめ	<p>【プログラムのアピールポイント】</p> <p>香川県のゴミパンフレットを配布。身近な買い物から出る廃棄物を通して、循環型社会への転換やそのためにはどうしたらいいのかを考える学習。ゴミとは何かを知ることができる。私たちが出すゴミの現状を知り、これからの暮らし方を学ぶ。今、話題のKP法でわかりやすく解説。</p>	

【プログラムの進め方】 ②「クリーンアップ・宝探し」

	学習内容・活動	写真
導入	<p>参加者を3グループに分け、市政のごみの分別について説明する。燃やせるごみ、燃やせないごみ、缶ビン、ペットボトル、紙布、プラスチック製容器包装、臨時粗大ごみの6項目に分け、曜日を決めて収集。ティーバッグを分別するとしたら？</p>	
展開	<p>ごみの分別ゲームの開始。上記の内、臨時粗大ごみ以外のゴミについて、制限時間内にグループで手分けして、分別競争を実施する。早いグループから得点を与えるが、正しく分別されていないと減点。総合得点を競いながら、正しい分別方法を体得する。</p>	
まとめ	<p>ゲームを通じて何を感じたか、参加者の気づきを引き出し、日本全体から地域のごみの現状を知り、ごみの発生を抑制し、リサイクル率を上げる環境負荷の少ない街づくりを学ぶ。都市のごみは、分別すれば資源であること、資源は有限。正しい分別からこれからの暮らし方を再考する。</p>	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>プログラムのアピールポイント①</p> <p>今、話題のKP法でゴミについて学び、コンテナ1個分のごみを市政の分別に合わせて体験し、身近な工業製品のリユース、リサイクルを考えるストーリー。大切なことは、ゴミを出さないこと。3Rを楽しく学ぶ工夫が満載。3部作を通じて、ゴミから省エネや地球温暖化対策を身につけることができる。</p> </div>	

【プログラムのアピールポイント②】

高松市における家庭ごみの正しい出し方を学ぶことができる。暮らしの中でできるごみの減量化・再資源化を考え、リサイクルの仕組みをゲーム感覚で学ぶことができる。約100品目のゴミの分別をゲーム感覚で楽しく学ぶことができる。グループワークにより、合意形成能力を身につけることができる。「ごみにけーしょん」を体験した後にを行うとより深まる。持続可能な社会づくり、コンパクトで低炭素な都市づくりを推進できる。

【プログラムの進め方】 ③「めぐりんピック」

	学習内容・活動	写真
<p>導入</p> <p>展開</p> <p>まとめ</p>	<p>参加者を 6 グループに分ける。割りばしのリサイクル図を掲示しながら、ゴミとは何かを問い、前回の学習を思い出させる。これからぐるぐるクロックという活動を行うことを告げ、グループでアイデアなどを競い合い、メダルの獲得を目指してもらおう。まず、自然素材でできた工業製品を問い、黒板に書き出す。少なくとも 6 つ以上。その中から各グループに 1 つ選択してもらおう。グループに用紙を配り、中心部にその絵を描く。時計と同じように 12 時から 1 時、2 時と 11 時まで円を描くように数字を書かせる。次に 12 時の時は、その製品が自然の状態、1 時～6 時まで加工過程を想像、工夫しながら描くことを指示する。6 時で工業製品となることを告げ、制限時間内にそれを仕上げるように指示する。仕上がったらグループ毎に発表させる。次にその絵を他のグループと交換させる。今度は、その製品を大切に使い、12 時まで元の状態に近づける工夫を考えて、7 時、8 時と過程を描いていくことを指示する。リユースやリサイクルなどのアイデアが出る。完成したら発表させる。工夫したことや問題点などを話し合い、すばらしいアイデアであれば、金・銀・銅とメダルを授与する。</p> <p>1 本の鉛筆の製造過程を例に取りながら、製品を製造するために多くの資源やエネルギーを消費する。資源をムダなくムリなく使うためにも 2R や 3R が基本であること。モノを大切に使う工夫やゴミを減らす視点に目を向けさせる。時計をうまく回すだけでなく、ゴミそのものを減らすことが大切であり、製品を買う時に環境のことや必要性を考えて、環境への負荷ができるだけ少ないものを選ぶという、消費者の視点も大切であることを伝える。</p> <p>【プログラムのアピールポイント】</p> <p>身近な工業製品の原料から製造、流通など私たちの手に入るまで、どれだけの資源やエネルギーを使用しているかを知り、購入したものを大切に使う工夫やゴミを減らす視点、別のものにつくり変えるなど、資源は有限であることを学ぶことができる。モノづくりの流通経路がわかるようになる。創造力を養える。県のぐるぐる BOOK を配布する</p>	    

以上、プログラム提供者：井上博夫